

# 天地

## ネットワーク テーブル 433号

発行：天地シニアネットワーク／2016・9・30

### 「目 次」

T E N T I · T O D A Y			1
会員の広場 「満蒙開拓平和記念館」 <動画コーナー>			2
連載作品			3
隨 想	天のわざ、地のほまれー地球を測れ、宇宙をはかれー 10・ケプラーー惑星の公転軌道を決定せよ	伊那 闊歩	3
旅行記	そうだ京へ行こう・古刹の花物語 (8) <醍醐寺>	大竹 漠洲	7
講演会	「奈良興福寺文化講座」 「新三木会」 「すどう美術館」		9
事務局			10

\*\*\*\*\*

### T E N T I T O D A Y

\*\*\*\*\*

世界的に経済が踊り場にあるのでしょうか、株式市場が冴えないようです。日本のマーケットも、株価が材料と関係なしに動いているようで分かりにくいです。アベノミクスも手詰まり感が強く、消費マインドは盛り上がりそうにありません。

政府は、高齢者から若年層への所得移転に熱心ですが、高齢者に己の将来の姿を見る若年層は、貯蓄へ向かうのは必然。高齢者いじめの政策は、マイナスのような気がします。

\*\*\*\*\*

ネットに溢れる情報をキャッチして、その情報を当該企業や団体に売るビジネスがあるようです。数年前、大手コンビニの店内で、コミック雑誌など、雑誌を売っているのは、はた迷惑とこの欄に書きました。しばらくして、同社にいた知り合いの元部長が、<久しぶり、元気>と訊ねてきました。

個人的に発信されている方もいますが、政治や社会的な問題についての意見の発信は、大いにすべきと考えています。

\*\*\*\*\*

混雑する駅での異臭騒ぎが報じられていますが、個人的にも加齢臭が気になります。先日、電車の優先席で異様な匂いがして、一瞬自分を疑いました。数駅先で、隣の男性が下車すると匂いが消えたので安心しましたが、匂いは自分ではなかなか気がつきません。

\*\*\*\*\*

浅草の老舗の天ぷら屋、隣のテーブルにすわった外人さんが、大きな声で英語をしゃべる。まるで外国の店にいるようで、落ち着きません。我慢、我慢と言い聞かせ、食べましたが・・・。

\*\*\*\*\*

## 会員の広場

\*\*\*\*\*

8月初めに「ノモンハン」へ行ったグループが中心で長野県下伊那群阿智村駒場にある「**満蒙開拓平和記念館**」を訪ねることになり参加、中央高速に乗って最寄りの飯田山本インターまで東京から車で4時間以上、近くの昼神温泉に一泊、2日掛かりの旅行でした。

満蒙開拓記念館は、一般社団法人として民間ベースで作られ、2013年4月にオープンしたばかり。資金難で規模が小さくなつたとはいえ、「満蒙開拓」の実態が分かりやすく展示されていました。「満蒙開拓＝農業移民＝棄民」という図式、国策に対する許せぬ恨みの一方で、中国人、満州人農民から極めて安い価格で買い上げた開拓地、実質的には日本国に侵略に加担したと、はつきり結論付けていました。

当館の展示、資料によれば、満蒙開拓団の名で全国の農村部から農業移民として満州に送られた人数は、27万人、県別では長野が一番多く約3万3千人、また県内では、下伊那・高田地区が一番多くて約8400人だったとのこと。帰国できた人は、県、地区ともに半数。

開拓団の数は、県からの割り当て、すでに働き手を徴兵され、どの家も満州行きを渋ったそうです。やっと予定近くになり、<阿智郷開拓団>が先発隊のいる「満州分村・阿智郷」を目指して飯田駅を出発したのは、終戦3か月前の昭和20年5月1日。敗戦濃厚の中、何も知らされずに出発した。参加者は、39家族、142名、6歳以下の未就学児27名、小学生34名、女性64名、20代30代の若者男性はわずか16名だったそうです。

これまで数々の悲劇の逃避行を聞きましたが、どのようにして満蒙開拓団が送り込まれたかは、全く知りませんでした。国策の失敗によって引き起こされた悲劇は、意図的に伏せられていたとしか考えられません。

満蒙開拓の記念館は、全国でも当館だけのようです。二度と過ちを繰り返さぬためにも、見ておくべきです。

昼神温泉は、山間の静かな温泉で湯量も豊富、旧中山道・馬籠宿も遠くありません。ぜひお出かけください。(津田)

\*\*\*\*\*

### <動画コーナー>

今年も行ってまいりました富山県八尾町の「越中おわら風の盆」。平成4年から25年間で24回目の訪問、今年で最期の区切りの「おわら」にする積りの旅でした。

胡弓の音と八尾住民皆さんの温かい人情に惚れて回数を重ねてきました。その間多くの友人を案内したり、地元の方々に大変にお世話になつたりと、思い出は尽きません。今年も動画が完結しましたので送らせて頂きます。毎度不出来な動画ですが、ご一緒に富山の八尾へ行ったつもりでご覧を！

2016「越中おわら風の盆」 動画

- 1) 八尾駅前の舞台前「輪踊り」
- 2) 福島町の可愛い踊り子
- 3) 福島町の静かな町流し
- 4) 天満町の「かどづけ」
- 5) 天満町の深夜の町流し
- 6) 八尾の町寸景
- 7) 東新町の町流し
- 8) 鏡町・西新町の町流し
- 9) 若者の若いパワーが
- 10) 下新町の舞台踊り-1
- 11) 下新町の舞台踊り-2  
(小泉)

<https://youtu.be/0AJwFFh0ACo>  
<https://youtu.be/jJd8y-yYmtI>  
<https://youtu.be/jJd8y-yYmtI>  
<https://youtu.be/jJd8y-yYmtI>  
<https://youtu.be/JwqbTC1xzcs>  
[https://youtu.be/1oVXZh2\\_st8](https://youtu.be/1oVXZh2_st8)  
<https://youtu.be/v42VNBTE0fg>  
<https://youtu.be/xNKDMkZ6-Yw>  
<https://youtu.be/EIhiSz6pd5M>  
<https://youtu.be/iITu124Xb1o>  
<https://youtu.be/CEC9Hi0T090>

## 連載作品

天のわざ、地のほまれ  
— 地球を測れ、宇宙をはかれ —

伊那 關歩

### 10. ケプラー — 惑星の公転軌道を決定せよ

地球は太陽の周りを回っている。いまや、誰でも知っている常識である。そしてその公転軌道は、実感はないが、円ではなく橢円であるという。そこでこころみに問うてみたい：地球の公転軌道が真円ではないことがどうしてわかるのか？—そんなこと天文学の素人にわかるわけがないではないか、天文台の精密な観測によってわかっているのだ—というような答えが返ってくるにちがいない。たしかにそのとおりなのだが、案外簡単にわかる方法があるので、それで納得していただけるかどうかは別として。

もし軌道が真円ならば、春分から秋分までの日にちと、秋分から翌年の春分までの日数は同じになるはずである（OK？）。なお、春分、秋分の日には太陽が真東からのぼり真西に没する、そして昼間の時間と夜分の時間が（ほぼ）同じになる。では、2016年を例として数えてみよう。2016年の春分の日は3月20日であった、秋分の日は9月22日である。そして2017年の春分の日はふたたび3月20日である。この結果、春分から夏至（6月21日）を経て秋分にいたる間の日数は185日、秋分→冬至（12月21日）→2017年春分の間の日数は178日である。その差は7日あり（公転軌道上の距離にして約1800万km！）これからただちに地球の公転軌道は橢円であると結論することは早計であるが、軌道が真円ではないことはこうして確かめられたわけだ。太陽の位置は（橢円の）中心にあるのではなく、冬至の方にかたよっているようだ。

ちなみに夏至から冬至までの間の日数は182日、冬至から翌年の夏至までの間の日数は181日で、この両者は（ほぼ）一致するのである。これで、地

球の公転軌道のおおよその形が想像できる。つまり、地球の公転軌道は、夏至と冬至の方向に引き伸ばされた橢円形であると思われる！ すでにお気づきのように、地球は冬至の日に太陽に近く、地球が太陽から遠くにあるのは夏至の日あたりなのだ。日本で夏は暑く冬が寒いのは、自転軸がかたむいていて、冬はななめ方向から陽が差し、夏の昼間には天高く太陽があるためであって、太陽からの距離のちがい（差は約 500 万 km）はあまり影響しないのだ。なお、地球が太陽にもっとも近づく日（近日点）は毎年 1 月 3 日ごろ、もっとも遠ざかる日（遠日点）は 7 月 5 日ごろである（図 1）。

地球の公転軌道の形がおぼろげながらわかった（？）ところで、まず、ケプラーの第一法則をご紹介しよう：

**ケプラーの第一法則：惑星は、太陽をひとつの焦点とする（太陽の周りの）橢円軌道上を運動している。**

この法則を発見したのは、ドイツ（神聖ローマ帝国）の天文学者ヨハネス・ケプラー（1571-1630）である。かれはこの第一法則によって、古代から中近世にわたる長い期間、円に執着し円の組み合わせによって惑星の軌道を決定しようとした天文学者の天動説を根底から覆したのである。同時代人としてケプラーと親交のあったガリレオ・ガリレイ（1564-1642）でさえ橢円軌道を受け入れなかつたというから、当時、如何に円への執着がつよいものであつたかよくわかる。同時にガリレオの思考の限界も見えるようである。

橢円は円を適当に引き伸ばして作られた図形と俗に考えられるが、橢円について数学的には次のように明確な定義があるので。

**橢円の定義：橢円とは、平面上で焦点と呼ばれる 2 定点からの距離の和が一定な点の軌跡である（図 2）。（図 2 では、 $FP + GP = \text{一定}$ ）**

二つある焦点がお互いに近づいて一致したなら、その軌跡は円になる。つまり、円は橢円のほんの特殊な場合であることがわかる。円こそ神から授かった至高の図形であるというのは偏見に満ちた人間の勝手な思い込みにすぎないのである。ケプラーの発見は、惑星の公転軌道が数学的に明確に定義された橢円軌道であるということにおおきな意味がある。つまり惑星の運動は数学によって支配されている、その軌道要素が計算によって決定できるようになったのだ。太陽は惑星がえがく橢円のひとつの焦点上にあるという。もうひとつの焦点にはなにもない。このふたつの焦点間の距離は地球の場合、約 500 万 km である。地球-太陽間の距離が約 1 億 5 千万 km であったから、地球はかなり真円にちかい橢円軌道を公転軌道として太陽のまわりを回っていることがわかる。

ケプラーは居酒屋の長男として、ドイツ南部の小都市ヴァイル・デア・シュタットに生まれた。両親は、幼いケプラーに適当な初等教育を受けさせて、将来は家業の居酒屋をつがせようと考えていたであろう。しかし、神学校を卒業したケプラーは、さらに高等教育をうけることを願った。両親もこの長男に、学問にたいする並々ならぬ才能と熱意を感じ取っていたのだ。ケプラーはテュービンゲン大学にはいり、数学を専攻したのである。卒業後 1594 年、グラーツ大学の天文学と数学の教師になった。

1596 年ケプラーは、最初の著書『宇宙の神秘』を出版した。ここにかれは、コペルニクスの地動説（太陽中心説）について解説した。かれはこれを尊敬するガリレオにも献呈し、ガリレオの支持を得たという。しかし、この時代フランスではユグノー戦争が長々とつづき、ドイツ国内でも小王国同士、カ

トリックとプロテstantに分かれて諍いがたえなかつたらしい。ケプラーは、ガリレオにイタリア本国ではなくドイツにおいて地動説支持者であることを表明するように願つたようであるが、ガリレオは態度をあいまいにしていたらしい。まもなく、ケプラーはプロテstantであったため、カトリックから迫害をうけ、職を追われたのである。

1599年ケプラーは、デンマークの天文学者、当時プラハで宮廷数学官であったティコ・ブラーイ（1546-1601）の助手として招かれ、プラハに赴いた。ティコ・ブラーイは、デンマーク東方のヴェン島に大規模なふたつの天文台—ウラニボリ（天の城）およびステルネボリ（星の城）天文台一を建設し、20年間にわたり、天体観測を行い、膨大な観測データを蓄積していた。1572年に超新星（SN1572）を発見している。天文台とはいえ、望遠鏡が発明される前であったから、巨大な真鍮製の4分儀や6分儀、天球儀や渾天儀などが、設置されていたにちがいない。4分儀や6分儀は星の位置を角度によって精密に測る装置で、両方とも南半球の星座名にもなっている如く、当時もっとも頼りになる天体観測機器であった。王室からの豊かな援助を得て、かれは当時としては、最高の精度で星の位置や惑星の動きを記録していたのだ。

ティコ・ブラーイはケプラーにまず、火星の観測データを見せたのである。火星の動きは曲者で、天動説から完全に脱していなないティコ・ブラーイにとっては不可解なものであったらしい。まず、火星の公転周期であるが、これは、太陽→地球→火星が1直線にならぶ日にちを2回つづけて記録すれば、計算することができる。くわしい計算ははぶくが、火星の公転周期は、687日である。公転周期がわかれば、687日の間隔において2度火星の位置（角度）を測れば、（ケプラーの第三法則を使わずに）太陽一火星間の距離が計算できるのだ。計算結果は、2億2千8百60万kmとなる。火星ももちろん橢円軌道上を運行しているが、橢円の形はかなり扁平であって、二つの焦点間の距離は約4200万kmもあることがわかっている。

1609年、ケプラーは「新天文学」を著し、そこに惑星の運動にかんする第一法則と次の第二法則を公表したのである。

**ケプラーの第二法則：太陽と惑星をむすぶ線分は、単位時間に同じ面積を掃く（sweepする）。**

この法則は換言すれば、惑星は太陽の近くを通過するときは、スピードアップし、太陽から離れるにしたがってスロウダウンすると言っている。地球の場合、冬の間地球の公転速度は大きく、夏にはスピードが落ちることを示していて、ケプラーはこれを単位時間に惑星が太陽との間に描く面積が一定であることとして正確に表現したのである。ケプラーのデータ解析能力の高さを示す快挙である。1609年、ケプラーはこれら第一、第二法則を『新天文学』のなかに書いたのであるが、これを理解できたひとたちはどれだけいたであろうか。

その後1611年、ケプラーは当時猖獗をきわめていた天然痘により、妻子を失った。ケプラー自身もまだ幼少の折、この病に罹ったのだが、危うく一命はとりとめたのであった。失意のなか、かれは、まさに不屈の精神力を發揮する。かれは、ティコ・ブラーイのデータ解析をつづけ、1618年、ついに最後の金字塔—ケプラーの第三法則一に到達したのである。

**ケプラーの第三法則：惑星の軌道長半径の3乗と公転周期の2乗は比例する。**

この法則が実際に成立しているかどうか、まずは確かめてみよう。ここで、

軌道長半径 =  $a$ 、公転周期 =  $T$  とすると、第三法則は  $a^3 \propto T^2$  と表すことができる。そこで、火星の場合、理科年表によれば、

$$a = 1.524 \text{ (AU)}, T = 1.881 \text{ (年)}$$

であるから、 $a^3 = 3.5396$ 、 $T^2 = 3.5382$ 。両者は小数点以下 2 桁まで一致する。軌道長半径を“天文単位”(AU)で測り、公転周期を“年”で計れば、比例記号“ $\propto$ ”をイコール“=”で置き換えることができるのである。

ケプラーの 3 つの法則によって天体力学の基礎が完成した。しかしながら、なぜこの法則が成り立つのか？その理由はまだ明らかではない。この謎は、あの天才アイザック・ニュートンによってあざやかに解かれたのである。

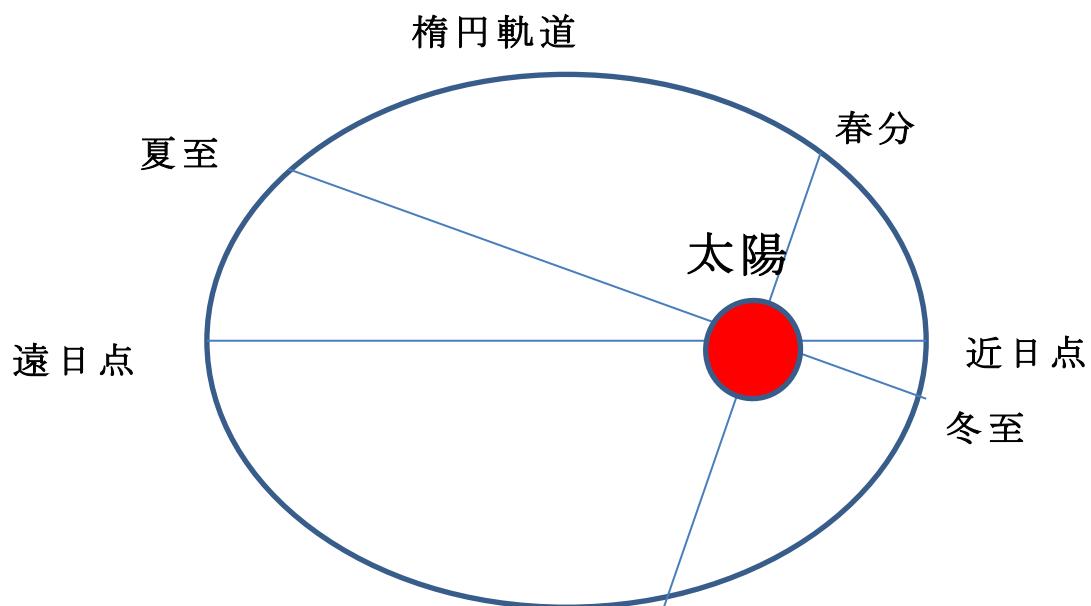


図 1

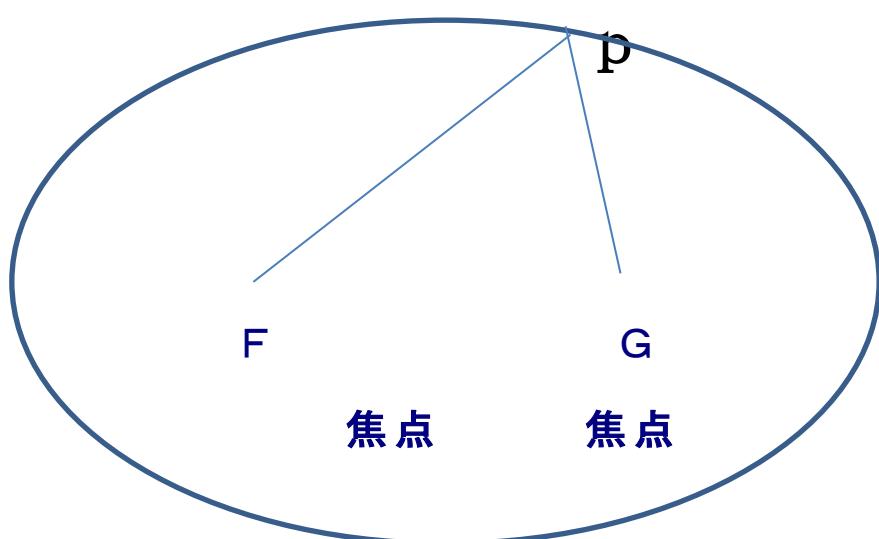


図 2

\*\*\*\*\*

## ＜そうだ京へ行こう・古刹の花物語＞（8）

大竹 漢州

### 東山の古刹・醍醐寺

醍醐寺の寺歴は、既に平安中期に始まっています。現在残している醍醐寺は下伽藍と呼ばれて、後に整えられた寺域です。醍醐寺は上伽藍から下伽藍へ伽藍の整備が行われています。醍醐寺は、開祖聖宝理源大師が上醍醐山上で、地主明神から夢に告げられた靈水醍醐水を得た所に庵を建て、観音像を安置して祀りました。その後に醍醐、朱雀・村上の三天皇のご信仰を得て、延喜7年（907年）には醍醐天皇の発願で薬師堂が建立、続いて五大堂が落成して、上醍醐の伽藍が整えられました。

時を移さずして、下醍醐の伽藍計画が着手されています。延長4年（926年）には金堂（当時は釈迦堂として建立されています）が建立、次いで天暦5年（951年）には五重塔が完成して、僅か50年の間に上伽藍から下伽藍まで、醍醐寺は伽藍が整備されました。

その後醍醐寺は真言宗小野流の中心的な存在地位を保ち続けます。政治の中心にあった人々との交流も重ねて、藤原一族に代わって台頭した權門源俊房の系統（醍醐源氏）の人が、座主に就きました。三宝院が建立されるのは、永久3年（1115年）です。ここにおいて醍醐寺発展の基礎が築かれました。

下伽藍に入り左手に進むと、地上よりも一段高い位置に、数多くの露出した柱で支えられた建物が金堂です。四隅の軒を大きく天に反らせて、勢いを感じさせる屋根を載せています。堂内に入って参拝するには階段を数段あがります。醍醐天皇の発願で建立された釈迦堂は、後に二度の火災で焼失しています。今日の建物は秀吉の命で紀州湯浅から移築されたものです。

堂内には薬師三尊が祀られています。薬師如来坐像（鎌倉初期）に脇侍が日光・月光の両菩薩像です。四方には守護神の四天王像（平安時代）が安置されています。

金堂の正面に立って左手を仰ぐと桜樹の上に、威容を誇る五重塔が見えています。青い空を背景に、薄赤色の桜に囲まれた五重塔は、普段以上の厳かさを漂わしています。塔高38mですが、相輪の高さは屋根から13mもあるので、全体のバランスもよく、安定感のある五重塔です。しかし桜と共に撮影するには難しい五重塔です。醍醐天皇の冥福を祈るために、第一子朱雀・第二子村上両天皇が、建立した塔です。

余談です。この塔が正真正銘の卒塔婆です。醍醐天皇には寺の近隣に御陵がありますから、遺骨は納められていません

余談の余談です。初層の内部には「両界曼荼羅」「真言八祖」が描かれています。日本密教絵画の源流を成すとも言われています。「両界曼荼羅」とは「金剛界曼荼羅」と「胎藏界曼荼羅」の併称です。段々と難しくなります。

「金剛界曼荼羅」は、大日如来の悟りの智慧を象徴しています。

金剛頂經(密教經典)に基づき、金剛界を描いた具茶羅です。「胎藏界曼荼羅」は大日如来の慈悲から全ての仏・菩薩が現れて、衆生を救うことを目的とする曼荼羅です。「真言八相」とは真言密教を相承した八人の祖師を指します。

即ち大日如来・金剛薩埵・竜猛・竜智・金剛智、不空・惠果・空海の八人です。これらの板絵は、10世紀に描かれたもので、空海像は日本で最古のものです。桜に飾られた五重塔はとても美しい姿でした。桜と言えば、歴史に名を残している『醍醐の花見』を思い出しました。秀吉や北政所、淀君、秀頼は、醍醐寺の何處で花見の宴を催したか?小さいことに気に掛かる性格です。記録によれば『醍醐の花見』は、慶長3年(1598年)3月15日に醍醐寺で催されています。この5ヶ月後に秀吉は他界しています。秀吉の『醍醐の花見』は、自分の死期を予測していたように催されています。前年の2月に秀吉は醍醐寺を花見のために下見して、醍醐寺座主義演に"何て、ボロボロじやのう"と漏らしています。

座主義演は困惑顔して、"応仁の乱を始め数々の戦乱で焼かれ、しかも荘園を奪われて、再興する財力も気力もござません"と応えています。これを聞いて秀吉は金堂(本堂)と三宝院の再興と三宝院の造園を命じています。

しかも造園には聚楽第にあったあの「藤戸石」運ばせてています。如何に秀吉にとって、「醍醐の花見」は掛け替えの無いものであったことが想像されます。

花見の為に寺院入口「桜の馬場」から「やり山」まで350間(637m)に、700本の桜樹を植えさせています。今、旅人が眼にしている美しく華やかな桜のトンネルを秀吉も北政所も秀頼も愛でたに違いありません。秀吉の面目躍如の逸話が残っています。女を愛した秀吉は1300も花見に伴い、しかも日に3度も衣装替えをさせました。衣装を脱げさせた人物は、九州征伐で秀吉に降伏した島津義久です。3900棹の衣裳代は、今日の金額計算で32億円にもなるそうです。

『醍醐の花見』の花見の宴は「三宝院」とか「やり山」とか言われていますが、秀吉のことですから醍醐寺全体を花見の宴の会場として設えたことは想像に難くありません。「やり山」に続く台地に幔幕を張り巡らし、満開の桜樹が囲む下で「花見の宴」が催されています。中央には、秀吉と北政所が、二人の間に4歳の秀頼が座り、両側には西の丸(淀殿)・三の丸(京極竜子)の奥方が居並んでいます。

秀吉は、『醍醐の花見』に満足気で機嫌良く愛矯を振りまいています。突然、秀頼が立ち上がって、一陣の風で満開の桜が舞い散る花弁を追いかけるように駆け出しました。慌てて秀吉も立ちります。女たちは二人の突然の仕草に笑い転げています。秀吉はしゃがみ込んで、秀頼と向かい合いました。風のいたずらで花弁が、再び舞い上がっています。秀吉は秀頼に両手を広げて差し伸べました。父の姿を目にした秀頼は、秀吉の元に一目散に駆け寄ります。吹雪と涙目で我が子の姿は朧げです。自らの生涯に比すれば、ほんの一瞬です。生涯を振り返って、この瞬間に最高の幸せを感じた秀吉は、最愛の秀頼の行く末を心残りにして亡くなっています。人間の幸せは分からないものです。

旅人の5歳の孫娘がピアノ発表会で、大きなグランドピアノと闘うように、真剣に弾いている姿に感動して、涙がこぼれました。抗がん剤の影響で副作

用も少なくありません。孫たちから感動を貰うためにも、旅人も1日でも長生きしなければならないことを実感した瞬間でした。

余談です。流石に『醍醐の花見』催された寺院の桜は数々の樹種があって、3週間も花見が出来るぞうです。彼岸の頃に咲き始める“河津桜”を皮切りに、“枝垂れ桜”“染井吉野”“山桜”“八重桜”“そして三宝院の”大紅しだれ“

金堂脇の”大山さくげ”も次々と咲き誇ります。」恰も人間の短い一生を見下ろすように

\*\*\*\*\*

## 文化講座・講演会・美術展

### 奈良興福寺文化講座 28年10月20日(木曜日)

午後5時半～6時半：第一講

講演：「御照覧を仰ぐ—慈恩会の紹介」

講師：興福寺僧侶 Saile 晓映

午後6時40分～7時・・・心を静める

午後7時～8時：第二講

連続講話・「奈良・祈り・心」 興福寺 貫首 多川俊映

会場：(学)文化学園 文化服装学院内

受講料：500円 先着200名

(JR新宿駅南口、小田急線、京王線各新宿駅から8分、都営新宿線新宿駅3分)

### 第75回 新三木会講演会のご案内

1. 日時・会場 10月20日(木)13:00～15:00 如水会館スターホール

2. 演題・講師 『沖縄の米軍基地と歴史認識』

橋本 宏氏 元オーストリア、沖縄担当特命全権大使

3. 申込・会費 E-Mail: [shinsanmokukai@gmail.com](mailto:shinsanmokukai@gmail.com)

TEL : 047-464-4063 (留守電有)

フルネーム・卒年・所属(例:一般・紹介者)

会費:2000円 婦人1000円 学生無料

4. ホームページ <http://jfn.josuikai.net/circle/shinsanmokukai/>

5. 予告 11/17, 第76回 小平龍四郎氏 日本経済新聞社論説委員

『EU離脱後の英国とユーロの行方』

12/15, 第77回 ケント・ギルバート氏 加州弁護士 著述家

『日本人の国民性を考える』

1/19, 第78回 佐藤勝彦氏 宇宙物理学者 東京大学名誉教授

『宇宙は無から生じた』

新三木会代表幹事 則松久夫

### すどう美術館

〒250-0853

神奈川県小田原市堀之内 110-2 ベルデュール 103

◆電話、メールは変わりありません◆  
Tel 0465-36-0740 Fax 0465-36-0739  
メール [info@sudoh-art.com](mailto:info@sudoh-art.com)  
ホームページ <http://www.sudoh-art.com>

## すどう美術館 コレクション パート2

会期 10月7日（金）～12月26日（月）  
開館時間 10：00～17：00 火曜定休  
入館料 500円（小学生以下無料：保護者同伴）  
会場 箱根芸術空間 風伯  
〒250-0311  
足柄下郡箱根町湯本 540-4  
Tel 0460-85-7440

\* 講演会 10月22日（土）午後2時 「豊かに生きる—美術との出会い—」  
すどう美術館 館長 須藤一郎

\*\*\*\*\*

## 事務局

\*\*\*\*\*

### ＜事務所までの道のり＞

場所：〒110-0016 台東区台東2-21-9 双葉ビル2F202号  
(電話・FAX 番号：03-3837-0290)

御徒町界隈では、JR山手線・京浜東北線と昭和通りが南北に並行して走っています。

- ① JR御徒町駅北口を出てすぐ右に折れて、2ブロック直進すると、昭和通りに出ます。右に多慶屋の紫色のビルを見てさらに8ブロックほど直進すると、
- ② 都営大江戸線の新御徒町駅のA2入口が右側にあります。やや進むと（都営大江戸線の新御徒町駅A2入口を出た場合は右に回ると）、佐竹商店街のアーケードがあります。右折してアーケードを7ブロックほど直進すると、佐竹商店街の出口に到達します。そこを右に曲がってしばらく行くと、左側に薄青いビルがあります。（1階は焼肉屋「もとやま」。）そのビルの2階です。

### ＜投稿歓迎＞＜図書の推薦依頼＞

### ＜プリント版・郵送＞

メール版（無料）を月に一回編集してプリント版を発行郵送しています。お申込みくださいと送ります。その際には、実費として1月350円（4200円/年）をいただいておりますのでご了承ください。

<振込先> 振込先：三井住友銀行「神田支店」 (普通) 7871532  
(口座名) テンチシニアネットワーク

<配信・郵送、不要の場合はご一報ください、中止いたします。>

---

天地シニアネットワーク・テーブル・433号

発行：2016年9月30日

:天地シニアネットワーク事務局 (津田 穎人)

〒110-0016 台東区台東2-21-9 双葉ビル2F202号室  
TEL・FAX 03-3837-0290  
E-Mail tenti@mvc.biglobe.ne.jp  
URL <http://www5a.biglobe.ne/~tenti/>